

中谷元防衛大臣
荒井正芳・陸上自衛隊西部方面総監
江原康雄・九州防衛局長
伊藤晋哉・沖縄防衛局長

陸自オスプレイ・佐賀配備に抗議し反対する声明
九州・沖縄の戦争体制を許しません
ノーモア沖縄戦 命どう宝の会

陸上自衛隊V22オスプレイが暫定配備される千葉木更津駐屯地から佐賀駐屯地に移転配備されようとしている。防衛省は木更津配備オスプレイ17機を熊本自衛隊基地経由で7月9日以降、佐賀駐屯地に移転し、さらに目達原駐屯地からヘリ50機と兵員を佐賀駐屯地に移駐する計画だ。佐賀駐屯地のオスプレイ配備とヘリ移駐は、長崎県佐世保・陸自相浦駐屯地の水陸機動団ほか自衛隊の兵員、武器・物資を最前線の琉球諸島(与那国一奄美)に輸送・機動展開するための戦争準備にほかならず、断じて容認できない。九州各地のミサイル部隊、弾薬庫配備と並行し、琉球諸島への司令・兵站・輸送拠点の大規模化を図るもので、琉球諸島の戦場化、一体となる九州が戦争に巻き込まれる危険性を一段と高める暴挙だ。沖縄一奄美一九州で連帯する市民は、佐賀のオスプレイ配備、これを契機とする沖縄一奄美一九州の軍備強化に強く反対し、あらゆる戦争準備の中止を要求する。

佐賀への陸自オスプレイ配備は、長崎・相浦駐屯地の水陸機動団を琉球諸島に投入する実戦態勢の強化にほかならない。同水機団は米海兵隊をモデルに「日本版海兵隊」と呼ばれ、米海兵隊と九州・沖縄で「離島奪還作戦」と称する共同訓練を繰り返し、米海兵隊の高機動ロケット砲「ハイマース」も投入されている。日米の「離島奪還作戦・訓練」は「奪われた島を奪い返す」ために日米が陸自水機団などで奪われた島に強襲上陸し、島に侵攻した敵部隊との地上戦、戦闘機・艦船から島に集中砲火を浴びせて島を奪還する「作戦・訓練」である。日本の領土・島の奪還を至上目的に、島民を日米、敵国の戦闘に巻き込む「軍民混在」の非人道的な作戦である。石垣市の自衛隊「離島奪還作戦」は自衛隊兵力の「残存率30%」まで戦い、増援を得て戦闘を継続し島を奪還する計画である。自衛隊「残存率30%」は全滅に近く、石垣市民のゼロに等しい「生存率」は無視され、市民は破滅を免れない。住民の生存を無視する「離島奪還作戦」、そのための陸自水機団の投入、その陸自水機団を輸送する佐賀へのオスプレイ配備は断じて認められない。

前記のように自衛隊と米軍の「離島奪還作戦」訓練では陸自水機団と共に米海兵隊「ハイマース」ロケット砲も投入されている。「ハイマース」は米国がウクライナに供与し、ロシア軍に打撃を与えているが、米海兵隊は2016年から沖縄に配備。台湾有事の「日米共同作戦計画」(共同通信)では米海兵隊が「EABO(遠征前方基地)」作戦で沖縄の島々にハイマースを展開し、洋上の中国艦船を攻撃し、自衛隊が支援する一とされている。2024年10月、石垣島の「キーン・ソード」日米実動演習で米軍ハイマースが敵艦船との戦闘訓練を行なった。与那国島に日米のオスプレイが展開し、陸自オスプレイは石垣島にも展開した。米軍オスプレイは2023年に久米島にも展開し、台湾有事に対処する「EABO作戦」の訓練を行なった。

このように日米のオスプレイは琉球諸島の「離島奪還作戦」、台湾有事「日米共同作戦＝米海兵隊EABO作戦」に直結し、日米の兵員、武器、物資の輸送展開を中心的に担う。佐賀駐屯地への陸自オスプレイ17機、ヘリ50機もの大量配備計画は、九州一沖縄の戦争体制、実戦体制を完成形とするものだ。九州一沖縄の市民の命と暮らしを脅かす佐賀駐屯地への陸自オスプレイ配備、ヘリ移駐の戦争準備を即刻中止するよう要求する。